

第64回企画展

むかしの稲作（育苗）

～昭和 30・31 年の記録写真から～



平成27年4月5日～平成27年6月26日

岩手県立農業ふれあい公園 農業科学博物館

第二次世界大戦後の稲づくりは、食料増産、安定多収、省力化など、時代の要請を背景として躍進を遂げてきました。

岩手県では昭和30～31年に、農林省の委託を受けて県下10ヶ所で稲作作業の写真撮影と作業方法を記録しており、当博物館でその調査記録簿を収蔵しています。

当時、農家の農作業は人力や畜力を使った技術体系が主体でしたが、昭和22年に発表された保温折衷苗代の育苗方法が、昭和28～29年の冷害を契機に岩手県でも急速に普及がされ始めた時代でもありました。

調査記録簿で見られる農作業の慣行は、農家をとりまく自然的、社会経済的条件によりそれぞれ異なっており、体系的に撮影された写真から、むかしの稲づくりを窺い知ることができます。

今年度の企画展は、県中部地域の事例を「育苗」「田植の準備と田植」・「本田管理」・「収穫から以後の作業まで」に分けてシリーズで紹介します。

第一回目は「育苗作業」を取り上げ、記録写真とともに解説し「むかしの稲づくり」の様子を学べる場とします。



岩手県立農業ふれあい公園

農 業 科 学 博 物 館

北上市飯豊3-110 TEL:0197-68-3975

開館時間／9:00～16:30(入館は16:00まで)

休館日／月曜日(月曜日が祝日の場合は火曜日)

入館料／一般300円 学生140円 高校生以下は無料

団体割引等(20名以上)あります

駐車場／大型バス12台 普通車240台 身障者専用5台